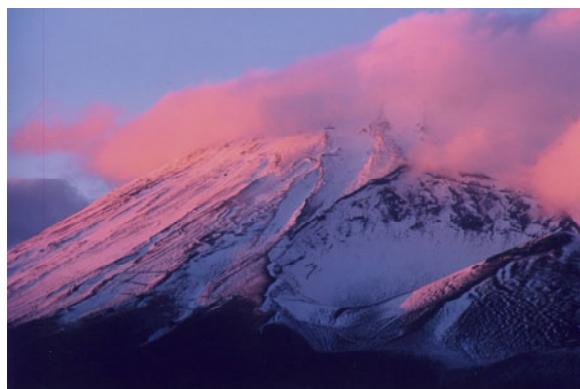


会員と千葉県連をつなぐ

ちばニュース

2011年 6月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpine Federation

2011年6月10日発行 通巻218号(毎月1回発行)

♪ 負けないで ♪

石巻に支援に行こう

6月号目次

私の一名山 「東北の山」	成田ラテルネ山の会	市場 正敏	3
第5次隊人的支援活動報告	千葉県連理事長	吉田 哲治	4
ボランティア参加報告	ちば山の会	小倉 時義	8
〃	松戸遠足クラブ 1年さくら組	窪田芙美子	10
〃	松戸山の会	鳥山 賢治	11
〃	松戸山の会ボランティア第2陣		13
〃	シリウス山の会	佐藤 安行	17
〃	山の会「岳樺」	徳永 舞	19
ハイキングリレーエッセイ	シリウス山の会	佐藤 安行	20
平和コンサートの案内	千葉こまくさハイキングクラブ	加藤 洋男	21
気仙沼産直支援	ちば山の会	広木 国昭	23
クリーンハイク報告	自然保護委員会	菅井 修	24
県連たより			25
県連予定表			26

「富士山」4景・・・

何枚かの富士の写真から一枚を選ぶのは忍びなく、4枚になってしまった。
もっと大変だったのが、原版がフィルムのためスキャンや印刷、配置に苦労しました。

写真はデジカメだと楽ですが、まだフィルムにこだわっています。

成田ラテルネ山の会 市場 正敏

私の一名山：富士山

成田ラテルネ山の会

市場 正敏

好きな山、心に残る山となると、百名山や最近に登った山々が記憶新鮮で候補となる。

その中であっても「富士山」は最も思いが強い山である。富士山は登山を目的とした最初に登った山であり、その後山登りを続けていく動機付けとなり、わが登山記録の中で最多の登山回数を重ねている山の一つである。

富士山に登ると“登りきった”とする達成感は他の山の場合と同じであるが、なぜか別な感情も沸く、特に夜に登ると星空に驚かされるし、日の出はやはり富士山からが良いと思う。

他の山に登った際、頂上に達し、先ず富士山を探し、魅入るのも習性となっている。

また、冬枯れの時期に、富士周辺の山に登ると梢越しに富士山が見えた時、その大きさと高さに驚き、登りのつらさが和まされる時がある。

子供が描く山の絵は富士山であり、大人にも魅入られ山麓に移り住んだ人や車に泊まりながら写真に収めようとしている人もいる。登る山でなく見る山だと言う人もいるが、何回も自分の登頂記録を更新している人もいる。総てが日本一の山の由縁か、日本人の心の山でもある。

自分自身、登山に熱中していた時代は登るのみが目的で、裾の忍野すら知らなかいでいたが、年を重ねるに従い、四季や時期刻々に変わる富士山の姿や高山、独立峰が故の自然現象にも興味が広がっている。冬の時期、成田からも富士が見えるので夕焼けの日、写真を撮りに行く事がある。

現在、富士山は登山対象であり、残雪の時期やトレッキングの高地順応に登る山であるが、やがて、登山が無理になれば麓からの撮影目的等に移っていくのだろうか？

何れにしる「富士山」から離れる事はないようだ。

東日本大震災 第5次隊人的支援活動報告

理事長 吉田哲治

日時 2011年5月14日(土)～16(月)(一部の会は15日まで)
場所 石巻市
参加会 船橋勤労者山の会(6名)松戸山の会(3名)、シリウス山の会(1名)、ACT
峰友(1名)、山の会「岳樺クラブ」(1名)、会員外1名 以上13名
他、宮城、群馬、埼玉、京都各地方連盟

行動概要

- 5月13日(金) 21:00頃、各会千葉出発。南三郷IC～矢本IC 途中、菅生SAで各会と合流、仮眠。
- 5月14日(土) 8:00着。前日の雨により、作業場所阿部宅農地へ変更。宮城、群馬、埼玉、京都と共に約40名で500坪のビニールハウス内の瓦礫撤去、泥出し作業を行う。
15:00 作業終了後、水沼東部構造改善センターへ。
17:00 各地方連盟と交流会。
- 5月15日(日) 8:00 改善センター前集合。挨拶・体操後、水沼山へ出発。
9:30 水沼山下広場着。今集会の趣旨説明を受け、水沼山頂へ。山頂より、多くの子供が流された大川小学校被災状況の説明を受ける。「東日本大震災 鎮魂・復興祈願」と書かれた柱を頂上に立てる。つつじの手入れ作業後、広場へ戻る。
11:00～12:30 餅つき、昼食
12:30 各コースに分れてのハイキング。船橋の5名はこの後下山・帰宅。
14:30 上品山着。
15:30 改善センター着。
17:00 群馬県連、京都府連と交流会。
- 5月16日(月) 7:30 岡氏迎えに来る。被害の特に大きかった石巻市内を案内され、14日と同じ阿部宅へ。泥出し作業。
12:00 作業終了。
13:00 入浴。
21:00 松戸着、解散。

GWの気仙沼支援から帰って間もなく、関東ブロックを通じて今度は石巻支援の要請がきた。石巻労山の例年行っている石巻市民との交流ハイキングを本年は中止とし、それに代わって、鎮魂と今後の石巻の復興を願い、全国から駆けつけている労山の仲間と

の交流集会として開催する。それに関連付けての支援要請であった。作業内容は、労山会員および石巻農協組合員宅の農地の瓦礫撤去、泥出し作業である。

埃や泥まみれになりながらの力仕事も大事だが、交流会という心の通う支援もさらに大切なことだと、さっそく千葉県連へ支援要請を呼びかけた。だが、GW中に千葉県連だけで64名も気仙沼に支援に行った後なのでやや中だるみか、13名の参加ではあったが、それでも、宮城県連は別として他の県連に比べたら一番多い参加人数だった。

以下、行動報告をするが、詳細は参加された方からあると思うので、私からは時系列的に簡単な報告のみにとどめておく。

13日（金）の夜に千葉を出て、途中菅生PAで各会と合流、仮眠して現地には8時前には着いた。初日はまる一日働こうと、みなさん意欲満々である。具体的作業の様子は割愛するが、一言述べさせてもらおうと、500坪のビニールハウスの農地の6区画うち、1区画を農家の方が50日かけて片付けたところを、労山の仲間40名で、他の5区画をほぼ一日で片付けることができたということである。それだけ人の力はすごいな、と感じた。

作業終了後は宿泊地の「水沼東部構造改善センター」へ。ここで今回参加している、宮城、群馬、埼玉、京都、千葉と、各地方連盟が集い70名ほどの交流集会となった。宮城県連や石巻労山の実際に被災されている会員の方の話には、なんとも言えない、現場を経験した人でしか語るこのできない思いが込められていて、胸に響くものがあった。

15日（日）は8時にセンター前に集合し、水沼山へ向かう。1時間少しで山頂下の広場に着く。広場にて、石巻労山の会長、副会長より挨拶を受ける。今回の震災に対する、万感の思いでの現状報告をいただき、そして復興に対する前向きな姿勢、全国の労山の仲間に対する支援への感謝を述べていただいた。会長・副会長とも被災者であり、また水道局職員など、インフラ復興に日夜邁進している方々である。忙しい中を、わざわざ挨拶に来ていただいたのには却って申し訳ない気持ちでいっぱいであった。

その後、水沼山頂へ。頂上からは、多くの子供たちが流されてしまった大川小学校の被災現場の近くが間近に見え、当時の様子を説明していただいた。小学校自体は尾根に隠れて見えなかったが、それでも、小学校が被災した状況が手に取るように見えて、何とも言えない気持ちになってしまった。頂上には、「東日本大震災 鎮魂・復興祈願」と書かれた柱を立てた。

広場で餅つきをし、たらふくお餅とおにぎりをいただき、各コースに分かれてハイキングへ。船橋の5名はこの日帰るのでそのまま下山、帰葉となった。

千葉組は3時間コースへ。上品山からは石巻の市街がよく見渡せ、ここでも被災状況の説明を受けた。

この夜も、残った群馬、京都の方々と交流する。ハイキング途中で取った山菜での天ぷら、おひたしは美味だった。

16日(月)は7:30に岡氏が迎えに来てくれて、石巻市街の一番被害の大きかったところを案内していただき、14日と同じ阿部宅農地の泥出し作業となる。我々千葉組はこの日で帰るので作業は昼までとし、その日も残る群馬、京都の方々に挨拶をし、阿部宅を後にした。上品道の駅ふたごの湯で3日間の汗を流し、松戸で21時の解散となった。

今回の支援は地元の労山、各地方連盟との交流もでき、非常に有意義なものとなった。特に、労山という組織の素晴らしさは他の山岳団体にはないものだと、改めて認識された。労山の仲間を大事にする姿勢はこのようなときにこそ、その存在意義が増してくると思う。そしてその思いは、労山の仲間だけではなく、被災された方々へも広く等しく同じように伝わっていく。気仙沼へいち早くかけつけてベースまで設けて支援体制を作った栃木県連のパワフルな活躍は目を見張るものがあるし、遠く京都や滋賀からも応援に来てくれた仲間には感謝である。そして、我々千葉県連もこれまでに述べ124名の仲間が支援にかけつけて来ています。これまでのご協力に感謝いたします。

また、気仙沼支援時には岳樺の徳永君の高三の娘さんも一緒に参加してくれた。そして、この20日からは3日間、船橋の岩本君の会社の同僚5人が石巻支援へ行ってくれた。被災地の現状を多くの人に見てもらいたいと、石巻労山の岡氏は労山会員以外の方の参加を歓迎されたようである。労山の仲間だけではなく、少しでも現地へ行く人が増えてそしてその現状を身近な方へ伝え、職場・地域で多くの方の支援の輪がひろがっていくことを願うばかりである。

関東ブロックでは、6月より第1と第3週の週末を中心にして石巻へ支援していくことが決定されている。これから梅雨に入り、暑くなっていくが、こんな時こそ山屋の出番です。体調管理に気をつけながら、これからも支援へのご協力お願いいたします。

— 参加感想 —

船橋勤労者山の会 関口康夫

作業終了後、上品(じょうぼん)みちの駅 ふたごの湯@700円也 私は、屋外の足湯@無料に厄介になり田植え作業の手伝いに来られた地元の家族の方とおしゃべりをして私が災害のためのボラと知って、「遠い所からありがとうございます!」、とてもほっと(足湯)で和やかな時を過ごすことができ、こちらこそ ありがとうございます

た。なにげない所で被災地域の方々とおしゃべりができ笑顔が見ただけでも来て良かった。しばらく内陸地を走り、田園風景の中の閑静な水沼東部構造改善センターに到着。地元の石巻勤労者山岳会をはじめ、宮城県勤労者山岳連盟、京都労山、群馬労山、千葉労山など約60名余りのボラ参加による時を忘れて楽しい交流会でした。また、地元の方の賄料理の数々には美味しく感激しました。翌日は、センターより水沼山へ。途中初めて見たアスパラガスの畑に感激。約90分で休憩場、作業は10年前に植樹したツツジのツタ類の根っこ切り作業・山頂より三陸海岸沿いでの被害の状況説明、下りながら山菜取り（タラの芽、わらび）もしました。昼食には、餅つきをしてお雑煮など至福の時間を過ごさせていただきました。下山後、帰りにお世話になった地元の労山関係者の方々が見えなくなるまで手を振ってくれ、また来ま〜ずっと答えちゃった……。他の労山の方々と復興・復旧のため協力し汗を流し、喜びをともにする機会にめぐり合えとても良かった、また山行とは違った味わいがあります。今回で2回目の被災地、『切に生きる』（道元より）ことの輝きを知りました。ありがとうございました。

関東ブロック・東日本大震災支援会議報告

この度の、大震災の支援活動に対する関東ブロックの足並みはそろってはいません。栃木県連・千葉県連は気仙沼地域に支援隊を送っています。また、群馬県連・埼玉県連も救助隊が釜石地域に支援に行っています。

この様な現状をふまえて、被災地に近い関東ブロックが統一して支援隊を派遣することは大きな意義があります。

以下に、確認事項・今後のボランティア・支援隊活動について報告します。

◆、関東ブロックとしての確認事項

①宮城県石巻地域への、支援活動を重点として取り組む。

- ・毎月 第1・第3 土・日曜日を統一行動日とする。
- ・上記以外でも、参加者がまとまれば、現地は引受け体制を取ります。
- ・宿泊場所は、現地の農協施設を提供してくれる。

トイレ・水道・ガスはあります。風呂はありません。

注 深夜に作業集落には入らないで下さい。自警団を組織してパトロールを実施しています。

②今後のボランティア・支援活動について。

- ・被災地に本を送る。（群馬県連を中心に実施する）
- ・被災地の特産物を販売し、現地を励ますと同時に支援活動資金とする。

千葉県連は、引き続き吉田理事長を中心に支援活動を実施します。

仙台市宮城野区におけるボランティア報告

ちば山の会 小倉時義

2011年05月15～18日

支援先 仙台市宮城野区蒲生

支援団体 NPO法人市原自然楽校 物づくり支援隊 (チェーンソーカービング仲間)

参加者 宮城地区 3名

市原地区 8名

水戸市 2名

横浜市 2名

NPO法人自然楽校ものづくり支援隊は市原市の観光大使でもあるチェーンソーカーバーの栗田宏武を隊長に 災害地域の復興支援を目的に活動しています。

前回 5月17～18日に宮城野区蒲生の旧家の泥出しや床板はぎ消毒をした



そのほかに

隣家の庭に流れ着いた流木を重機で動かさないで切断してくださいとの復旧支援の役所担当者からの依頼で 切断しました。



切断した流木を記念に熊さんをカービングしていたら

近所の方が集まり 家にもほしい・・・避難所にもほしい・・・と言うことになり、宮城のカーバーと 9個の作品を作り 避難所の方と交流してまいりました。





ぜひカービングしているのを見てみたいとの要望がありましたが、校舎では授業中でもあり制作過程はみせられませんでした
次回の活動日に観戦したいと要望があり。(この件に関しNNK全国放送でも取材したいとの希望もあります)

5月9～14日のボランティアを募集して復興・交流を進めたいと思います
市原市 NPO自然楽校 もの作り支援隊 小倉時義 (0436-41-5764)

以下メール添付

5月23日 宮城県蒲生の●●より、ものづくり支援隊のみなさまへ

はじめまして！宮城県仙台市宮城野区蒲生の●●と申します。

5月14日～16日の3日間に渡り、ものづくり支援隊のみなさまには大変お世話になりました。

家の修繕は、私たちだけではどうしようもないレベルでございました。みなさまのお力のおかげで、取り壊そうと考えていた先祖代々大切にしてきた家に、これから住めるのではないかと希望が持ててきました。まだ国からは確実に住めるという許可がおりていない地区ですが、住民の我々が例え他地域に移動することになろうとも、大事にしてきた家を綺麗に直してあげたいのです。誰かが綺麗に家を直すだけで、「住むぞ！」という意思表示になり、周りも明るくなるのです。

また、チェーンソーアートにより、廃棄されるはずだった流木が、我々の地域の復興のシンボルになりました。地域みんなが元気づけられました。子どもたちもとても喜んでくれました。今回チェーンソーアートを生で見られなかった方々は、6月にぜひ自分の目でみたいと楽しみにしています。

みなさんは我々の地域に、笑顔とつながりを与えてくれました。そのきっかけを与えてくださったみなさまには本当に感謝致します。

北部津波災害ボランティアセンター勤務



気仙沼・石巻支援に参加して

まつど遠足クラブ一年さくら組 窪田芙美子

4月9日 唐桑に入る前に気仙沼の市街を見ることが出来た。災害発生から1ヶ月が過ぎようとしていたが、車が通る道幅を残し瓦礫は山になり信号機は傾き、人影もなかった。この中で女性に出来ることがあるのか不安になった。

海岸亭で気仙沼での活動を聞き、それなら出来るだろうと思ったものの翌日から石巻の支援に入るようになった。

石巻では、市の中心地の繁華街で瓦礫・ヘドロの除去を行った。災害直後に出されたであろう家財・家電それに流れ着いたらしい車、ヘドロは特有の臭いがしていた。個人のお宅の片付けも行ったが家の中には、まだ津波がはこんだと思われる悪臭のある水（海水？）もあり、畳は海水を含んで重く男性4人でも運び出すのが大変そうだった。

この日石巻はボランティアのイベントがあったらしくお昼には私たちにも炊き出しがあった、が必要なことだったのか、気仙沼との差が大きく寂然としなかった。単独・単発で参加している人には誤解を与えるのではないかと思った。

翌日は千葉労山単独で個人宅の支援に入った、が私たちも午前中で終わらなければならぬと思う気持ちもあり一軒が一段落するまで活動したが、長期に支援する時は水分補給の休憩を入れないとボランティアが体調を崩すことになるのかなと思った。気温が上がってきたときにはなお必要だろうと思った。

千年に一度の災害とか、こんなことが度々あって手順よく出来るようになっても困るが、前日の活動が終わった時点で翌日の活動場所・活動内容・必要人員・必要物品を班のリーダーさんを集めて連絡することは出来ないかと思う。何もしないで待つ時間も多く、本部から器具機材を借りて効率よく活動することも出来るのではないかと思えた。

それにしても、活動内容もはっきりしていない中、女一人の参加も認め会の中に入れて下さった、船橋労山の皆様お世話になりました。ありがとうございました。またの機会にもどうぞよろしく願います。

ボランティア・支援隊への参加のお願い

千葉県連盟は、当面石巻を最重点に支援活動を行います。この活動には関東ブロックの各県連盟と協力して実施します。

石巻・水沼地域の農地のガレキ・ドロの搬出作業は多くの人手が必要です。第1・第2土・日曜日を統一行動日として集中して作業を行います。参加希望者は、各会でまとまって、1人でも結構です。乗り合わせが無理な方は県連として協力体制を取ります。

吉田理事長まで連絡をお願いします。（Eメール：tetsu195715@aol.com）

石巻方面支援第3次隊活動に参加して

松戸山の会
鳥山賢治

日時 平成23年5月13日(金)夜～16日(月)

参加者 松戸山の会3名(吉田年江、伊藤當志美、鳥山賢治)

行動概要

- 5月13日(金) 21:00に松戸市民劇場に集合。同乗者(吉田千葉県連理事長、佐藤安行:シリウス、小谷直行:ACT 峰友)と自己紹介の後、吉田理事長の車で出発。途中、福島松川PAで千葉県連傘下の会(船橋労山・岳樺)と合流、仮眠。
- 5月14日(土) 6:00出発。直接、阿部さん宅へ向かう。8:30頃到着。他の労山(京都労山、群馬労山、埼玉労山)も集合。石巻労山の岡さんから本日の作業についての説明。男性陣はビニールハウス内の瓦礫撤去、女性陣は表土取りに決定。9:00頃作業開始。昼食(元会員の中田さんと再会する。)をはさんで15:00終了。本日の宿泊先である水沼改善センターへ移動。途中、第2次隊で千葉県連が支援に伺ったお宅を訪問。19:00頃から宮城労山主催の交流会に参加。
- 5月15日(日) 石巻労山主催の交流会とハイキングに参加
8:00「水沼山ツツジ園」に向け出発。9:30～11:00「水沼ツツジ園」で植樹作業と蔦類の刈り払い作業、11:00～12:00餅つきと昼食(石巻地方の雑煮と餡餅をご馳走になる)。
12:00～15:00ハイキング(水沼山～上品山～水沼改善センター)、途中、山菜を採る。
15:30～17:30女川、石巻地区の被災状況を視察。
- 5月16日(月) 7:30初日と同じ阿部さん宅に向かう。8:30頃から宮城労山、京都労山、群馬労山、千葉労山、石巻農協の約20名で、ごみ、表土の除去作業を実施。12:00午前作業終了。ここで、千葉組は終了、まだ、翌日まで作業をする京都労山、群馬労山や地元の宮城労山、阿部さんに挨拶。帰路の途中の道の駅で入浴・食事した後、松戸に向け出発。20:00前に松戸に到着、解散。

石巻労山の岡さんの言葉。「報道される写真やテレビの映像の狭い視野より、人間の180°の目で被災地を見て欲しい。そして、語り部となって次に予想される東海、東南海、南海地震への備えをして欲しい。」

まさに、「百聞は一見にしかず」のことわざどおり、すごい状況でした。2ヶ月もたっているのに復興はまだまだと云った様子です。石巻市内でも幹線道路の瓦礫は撤去されているものの、横道に入ると瓦礫が残っていたり、ボランティアが泥の撤去や洗いものをしていたり、まだ、復興は進んでいませんでした。また、信号がついてなかったり、水道も出ないお宅がたくさんあるといった状況だそうです。

女川町の中心部は全滅といった状況です。5階建てのビルの上に車がのっていたり、家がのっていたりと云った状況がそのまま残っていました。重機が入った

瓦礫撤去が行われていましたが、ごく一部で、その分大きな被害を受けたことがわかりました。

作業をさせていただいた阿部さん宅は、2.5mの津波被害を受けられたそうですが、以前の津波の時には前の家で止まったとのことで、今度も大丈夫とと思っていたそうです。トマトやきゅうりを栽培されておら



女川町中心部 ビルの上に車が乗っていました。

れる専業農家とのことでしたが、きゅうりを2・3回収穫したところで被災され、そのため、収入の道を断たれたためにご主人は仕事にでて、奥さん一人でビニールハウス内の瓦礫を撤去していたそうです。我々がに入ったときは、まだ、ボイラーや流れたついた瓦礫が散乱し、ゴミがビニールハウスの上の方にもついている状況でしたが、その中で、6区画あるうちの一区画だけ瓦礫の撤去が終わっていました。奥さんが一人で2ヶ月かけて作業されたそうです。取っても、取っても、少しも無くならなかったそうで、大変だったとのことでした。

阿部さん宅の作業は2日間でしたが、予想していた以上に作業がはかどり、この2日間で瓦礫が人の力で撤去され、人海作業のすごさを思い知りました。一人の人間の力は小さいですが、集まった力がいかに大きいかをあらためて知ったボランティアだったと思います。終わったときは腰が痛く、疲れ果ててはありましたが、心は爽やかな気持ちでした。

「百聞は一見にしかず」のことわざ通り、東日本大震災の被災区域と規模は想像を絶しておりました。復興には長い時間がかかると思います。一人の人間の力は小さいですが、纏まると大きな力を発揮することを知りました。ボランティアも長い取り組みが必要ですので、次回からもできる限り都合をつけて参加させてもらおうと思っております。

(追伸)

14日の昼休みに旧会員の中田清さんが阿部さん宅を訪ねて来てくれて、思いがけない再会となりました。少し離れたところで作業しているとのことで、名簿の中に私たち3名の名前を見つけて来てくれました。日曜日は仕事があり日帰りとのことでしたが、短い時間ながらも旧交を温めました。



阿部さん宅のプレハブの様子
これが2日で綺麗になりました。



石巻市内の横道に入った場所
車や瓦礫がまだ残っていました。



中田さんと再会しました。



14日夜の交流会での石巻労山の岡さんの挨拶。岡さんご夫婦には大変お世話になりました。



15日「水沼つつじ園」での交流会

被災地の復興を願って

松戸山の会ボランティア第二陣

◎山の会はボランティア活動の適任者集団？

「被災者の悲しみや苦しみを思う時、登山活動に使う時間のごく一部と、それらに要するお金の一部を被災者支援にまわして頂くことをお願いしたい」。これは、全国連盟 東日本大震災対策本部から被災地支援協力の呼びかけです。

松戸山の会は千葉県連盟の計画に協力して、第一陣の7人が4月9、10日、気仙沼へボランティア活動に行きました。

続いて第二陣は14人で4月29日から5月1日の3日間、場所は同じ気仙沼へ。

山の会の会員は、日ごろから登山活動を通じて体を動かすことや頑張る気持ちを培い、テント生活や野外での炊事にも慣れていきます。山の服装や装備もそのまま役立つことを考えると、私たちはボランティア活動の適任者集団であるのかもしれませんが。一般的にボランティア活動は、気持はあっても個人では行動を起こしにくいものですが、私たちは勤労者山岳連盟の会員だからこそ、組織をあげて協力できる環境にあることは幸せです。 (金田貞男)



(復興は小さな力の積み重ね)

◎継続の重要性を肌で感じる

被災地で目にした光景は、静かな海と、その海がすべてを破壊し大勢の命を奪った後の瓦礫の山でした。被災宅には何回もボランティアが入って作業した跡があり、継続することの重要性を肌で感じました。隣の老人ホームは3月11日の悲惨なそのままの状態、車椅子やベッドが散乱し、流れ着いた瓦礫があり、その様子は今でも目に焼き付いています。 (加藤静江)

◎復興した街並みと美しい海岸線を見たい

床下に入った津波による泥の掻き出し、汚れたふすまの泥を落として嵌め直すという、被災のお家の基礎を整理する作業でした。

また合間に津波と火災により壊滅的な被害をこうむった街並みに足を踏み入れ、息をのむ場面にも遭遇しました。被災後50日でまだこの段階、現地の皆さんの気持が少しでも分かりました。1日も早い復興を願い、ぜひ何年か後には復興した街並みと美しい海岸線を見に行きたいものです。 (丸山 宏)

◎国破れて山河在り

マスコミで見て、聞いていたはずが、目の前に広がるその惨状は想像を遙かに超えた。元はどんな光景だったのだろうかと思いに難い。ボランティア先では“うちはま

だ良い方なんだよね”と口を揃える。本当にそう見え、そう思えた。とにかく辛抱強く前に進むしかない。これからもみんなで支援しよう。それにしても、海岸線が綺麗だった。自然はこの大震災をどう思っているのだろう。(千葉 青史)

◎その仕事に合う道具が必要

すべての仕事に対して、その仕事に合う道具があると無いとでは作業の効率に大差がでます。また安全に楽しく作業が遂行できると思いました。チームワークも大事なことです。(渡辺 正二)

◎火災現場に桜を初め春の花々が……

2度目のボランティア参加。震災の傷跡は全く癒えておらず瓦礫の山。特に気仙沼市内の火災現場にはただただ呆然。そんな中、桜を初め春の花々が咲き誇っていた。

滞在中被災家庭の床下に堆積したヘドロの搬出作業を行ったが、一日一軒が精一杯だった。作業道具が殆どなく効率が悪かった。事前に作業内容が解っていればと思う。(細谷俊之)

◎“こぶし”を挙げてスクラム組めば凄いじゃない!

大震災の未曾有の被害を前に、多くの人が胸を痛め、涙を流し、自分に出来る事はなんだろうと考えた。GWにボランティアとして、千葉県連から50名が参加したのもその表れだろう。そして、この目で見た被災地は時間が止まったようで、復興にはまだまだ遠い道のりと思われた。14名の松戸労山隊。ちょっと見はくたびれているけれど、みんなで“こぶし”を挙げてスクラム組めば凄いじゃない!と、思わせてくれた3日間だった。(江原洋子)

◎さすが山男ガンバリました



(支援に行った家の奥さんを囲んで)

…さすが山男ガンバリました。(桑原佑子)

◎労山に加盟しているおかげで貴重な体験を

災害ボランティアに初めて参加しました。何が出来るか一抹の不安もありましたが、

会の一次隊の経験と報告がその不安を一掃してくれました。個人ではなかなか参加する機会が無いが、労山に加盟しているおかげで貴重な体験をする事が出来ました。

現地の方からも喜ばれ、有意義な日を過ごすことが出来ました。(太田 一寿)

◎ボランティア活動は被災者を勇気づける

- ・我々の3日間の活動は津波で家の中が破壊されたお宅の床を剥がして床下のドロをかき出し布袋に入れ、運び出す作業。ドロを被った襖や障子、家具を運び出しての水洗い。庭に堆積したドロをシャベルですくい布袋に入れ集積所までの運び出す作業等が主な仕事であった。
- ・震災後50日になることもあってか、被災されたご家族の方々が復興に向けて前向きに取り組んでいる姿を見ることが出来た。また我々を明るく迎えてくれもしました。
- ・一日の仕事を終えご家族に挨拶をして帰る際、我々の姿が見えなくなるまでご夫婦が手を振って見送ってくれた姿を見て少しはお役に立ったことを確信し、すがすがしい思いをすることができた。
- ・復興までこれから長い期間が必要です。人手も必要です。ボランティア活動を続ける事によって被災者を勇気づける事にもなると思われます。(大熊 輝雄)

◎人手はいくらあってもいい

テレビのニュースなどで映像は見ていました、現実を目の前に言葉はありません。とにかく何でもできることがあったら少しでもお役に立ちたい、と参加しました。

作業をしたのは個人のお宅で、1階は水が入って2階で生活していらっしやるのですが、家財道具は一切流失し、柱とクロスと障子、襖だけの状態でした。人手はいくらでも欲しい状態でした。長期のボランティアの必要を感じました。(竹内 あい子)

◎家族の力だけでは後片付けも大変

気仙沼の市街は地震、津波と火事の被害が激しかった所とニュースなどでは知っていましたが、現場を訪れると目の前に広がる光景は目を覆うばかりです。

4月の1回目のボランティアでは、鮎立(しびたち)の集落で瓦礫の排出などをさせていただきましたが、今回の気仙沼では泥出しや障子ふすまの清掃など、作業内容も少しずつ変わっているようです。ようやく水道が出たのが4月の17日、1ヶ月以上後片付けをしてきたと家の方から聞きました。やはり家族の力だけでは後片付けだけでも大変だと思います。これから普通の生活を取り戻すのにはまだまだたくさんの時間がかかるのでしょうか。少しでも我々にできることをさせていただくのが必要だと実感した3日間のボランティアでした。(岩淵 久道・春江)

◎支援活動は雪の降るころまで続く

千葉県連は今回で5回目のボランティア派遣になりました。今回は9つの会から50名参加、松戸山の会は何と14名参加で心強い思いでした。栃木県連約10名、殆ど千葉県連参加でした。

栃木県連現地本部長・森氏の指図に従い、各会およびグループに分かれてのボランティア活動に入りました。

わが松戸山の会は終始 14 名で行動できて幸いでした。仕事は瓦礫撤去作業と思いきや、一歩進ん



(千葉県連の 50 人が力を合わせて作業しました)

で床下のヘドロ撤去、戸・障子の洗浄と変わって来ましたが、大変な仕事でした。床をはがして床下に潜ってのヘドロ撤去は、腰にきて大変だったと思います。私は終始“ねこ車”でヘドロの袋運びに従事したので、楽をさせてもらいました。

ボランティアは手を抜くことは良くないけれども、あまり無理をしないでほどほどの手伝いが長続きの秘訣ではないかと思う次第です。

いずれにしても男女共に慣れない仕事を、ご苦労様でした。これからも雪の降るころまで支援は続きます。また募集しますので、その時はよろしく願います。

(桑原年一)

松戸山の会会報「山茶花」2011 年 5 月号から

ボランティア活動に参加して

シリウス山の会 佐藤 安行

千葉県連第5陣ボランティア活動に参加、宮城県石巻市に出向してきました。石巻会員の献身的な懇親会、滞在中における全ての取り組み、事柄に頭が下がりました。

語る事さえ辛いはずなのに、被災地のことを淡々と話をされる会員の方々の心情、察するものがありました。

植樹祭で餅つきを行っている間、私は地元会員の女性と話しながら、あの場所が大川小学校であることを知らなかった。「ニュースで流れた、あの学校のこと？」だとすればいまだ鮮明に覚えている、喪服姿で映る母親の映像がそうでした。

それは、津波から49日が過ぎ合同慰霊祭に向かう母親の姿に「お子さんが見つかりました。確認をお願いします」と自衛隊員、母親は子供にむかって「愛ちゃん、帰ってきたの。よかったね」と涙ながらに語りかけていた。わたしはこの「帰ってきたの」と言葉に、切なさが溢れました。

14日、作業内容は、宮城労山会員宅のビニールハウス内の瓦礫の除去と汚泥の搬出でした。このビニールハウスでは、きゅうりを作っているが、津波によって畑に大量の泥が流れ込んできた。この泥は塩分を含み畑の酸素と混じると、硫化水素が発生するらしい。早急にこの泥を取り出さないと畑が使えなくなる、との説明をうける。

津波から2カ月が経っているのにこの現状だ。津波の高さは2メートル半、建物の中は当然浸水でやられたはず、どこから手を付けたらいいのか途方に明け暮れたと思う。でも、ようやく気持ちが前向きになり、この畑まで回って来たのでしょう。ビニールハウスは当初、奥さんが1人で跡片付けをしていたそうです。震災後収入が途絶え、ご主人は日雇いに出ているそうで、最後まで私達と顔を合わせることはなかった。

15日、水沼山でつつじ、アオダモ、クロマツの植樹祭を行った。これは石巻の会員が毎年行っているもので、私はアオダモという木を植えさせていただきました。岩手、宮城、福島は必ず復興する。何年後になるのか、水沼山で大きく育っていることであろうアオダモの木、逢いに行きたいと思っている。山頂で世話人の岡さんが「皆さんにお願いがあります。帰ったら是非石巻、女川の現状を伝えてほしい」と切実に語られていた。

女川はリアス式海岸の街で津波さえ来なければ風光明美なところである。しかし街は、言葉に出来ないほど壊滅し街には住民すらいない。見かけるのは作業中の自衛隊員と警察菅のみである。瓦礫のビルに建てられた鯉のぼりが何事もなかったように泳ぎ、その横には大きく“がんばろう！女川”と書かれていた。誰が書いたのか、必死に涙をこらえた。

ボランティア活動は義務感とか、達成感などの自己満足を求めるのではなく気楽に参加して行けたらと思っています。



感想文（ボランティア参加して）

徳永 舞
山の会「岳樺クラブ」
徳永 和也氏 愛嬢

私は4月29日から5月1日までボランティアとして気仙沼に行かせていただきました。ちゃんと働けるか不安でしたが、班長さんの指示で出来たと思います。

山岳会にはのんびりの人達がたくさんいました。仕事はだいたい15時に終わり、15時半にはベースキャンプに着きます。まだ早い時間なのに山男の皆さんは、手にお酒を持っていたのがビックリでした。その中に私の父親も入りお酒を飲んでいました。すでに17時ぐらいには、もう出来あがっています。その姿はとても愉快でした。ただ、その中で父親がイジられていたのが……………。

そして翌日です。

山男の皆さんは2日酔いです。こんなんでも働けるかとぶっちゃけ不安でした。しかし、仕事が始まると皆さんの顔の表情が変わりました。真剣に仕事をしている皆さんが格好良く見えました。もちろん父親も。です。

格好良いかどうかは置いといて。夜は、まだ飲むの かってぐらいたくさん飲んで朝になると何にも覚えていない。そんな父親も昼間は汗をかきながら必死に仕事をしていました・・・と思います。

そして、あっという間に3日は過ぎていきました。充実した3日間だと思います。私は気仙沼を含め、被災地が早く復興出来る事を願っています。

このような機会がありましたら積極的に参加したいと思っています。また、このような貴重な体験をさせていただいた千葉県の山岳会の皆様、気仙沼の皆様、ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

舞さん、参加有難うございます。

お父さんが働く姿を見られて良かったですね。やる時はやるのです。

お酒も楽しいから飲むのです。まして今回は、うれしかったのです。山岳会には、ノンバーの人達がたくさんいます。

でも、お酒を飲まない人もいますヨ。本当です。

青春18きっぷ

シリウス☆山の会 佐藤 安行

雨飾山、火打山、妙高山、三山共にあこがれの山だった。

定年を機に自由に使える時間はたっぷりとある。黒姫山はどうか、と思いながら計画を練っていくこの時間が楽しい。昔は路線と時刻、そしてバスまでをつなぎ合わせ調べた。しかし今はインターネットの路線情報があり、確実に出発駅から目的地の駅まで瞬時に表示される。今の新幹線を主とした運行路線、私のような元カニ族には少なからず旅情をかき消されている。青春18きっぷを雨飾で2枚、妙高・火打で2枚、残りの1枚を日帰りの山、岩殿山で使用した。

雨飾山（8月3～5日）

糸魚川から小谷に抜けるコース、新宿を23時54分発のムーンライト信州に乗り、糸魚川着8時46分、10時30分の別所行きの路線バスに乗り換え、山口というバス停で降りる。ここからは暑い最中を雨飾山荘まで、林道を延々と歩く。タクシーを使うという手はあるが、青春18きっぷで交通費を抑えているのに7000円を払ってまで乗るか、という気になってしまう。

雨飾山荘13時30分に着き、そのまま温泉に直行し汗を流したかったが、テントの設営、濡れたシャツを乾かす仕事が残っている。蚊取り線香を焚き、ビールを飲みながら山を眺め、簡単なつまみを兼ねた夕飯を作る、楽しい時間だ。

火打山・妙高山（9月3～6日）

前回と同じように、ムーンライト信州を使い松本、長野、そして妙高高原からはバスを利用、笹が峰から入り高谷池ヒュッテに15時に着いた。

高谷池ヒュッテの水場は、池塘から引いているため煮沸が必要。三角布で水を濾し炊事、お茶、焼酎のお湯割り用として使った。3日分の行動水、水道の水3リッターを別に持ったが、最後の方は計算しながら飲む始末、足りなかった。

最近の山行スタイルは歳と共に変化、下山後の温泉泊が山と一体化し楽しみになっている。雨飾山の時は、雨飾温泉の中でもあえて小さなところ、しかもバス通りから外れた旅館を探す、混雑を思えばむしろホットする。妙高の燕温泉、この時も温泉街から離れた山中の宿を求めて泊まり「よく歩いたなー」と自分に乾杯をした。

岩殿山（9月10日）

中央線を下って行く、車窓から見える大きな岩山が気になっていた。それが大月駅の目の前にある岩殿山だ。気軽に歩きを楽しめる山だと思う。

今後はこのような温泉泊まりの歩き方が自然となり、実践していくのだろう。

第24回平和を願うコンサート

『ヒロシマ・ナガサキの風』に寄せて

今年も7月に平和を願うコンサートを開催することにしました。3月11日の東日本大震災で2万5千人の方々が犠牲になりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。そして被災地の一日も早い復興を切望します。

震災に伴う、絶対安全だと言われていた原発の事故……。今年のコンサートは広島・長崎の原爆がテーマになります。広島・長崎の原爆が人ごとではないこととして受け止められるのではないのでしょうか？プログラムの第Ⅱ部では女優の吉永小百合さんが選んだ詩のCD『第二楽章ヒロシマ・ナガサキの風』の中から3つの詩の朗読と音楽を構成して演奏します。

ほかにも邦楽（尺八と箏）ピアノ、ヴァイオリン、ファゴット、マリンバ、ソプラノ、合唱と多彩な内容のプログラムです。私が担当しますファゴットでは池田文麿さん作曲の本邦初演の曲・パストラーレを演奏します。大変ユニークな演奏し甲斐のある曲です。

今年も昨年に引き続きまして、千葉労山の後援もいただきました。お時間がございましたら、ぜひ御来聴くださいますようお願い申し上げます。

御来聴くださる方は、FAXかメールで加藤までお申込ください。
前売り料金で当日受付にチケットを用意させていただきます。

TEL&FAX 043-286-2616 Mail katoh-hi@mx71.tiki.ne.jp

加藤洋男

労山・千葉こまくさハイキングクラブ 会員

平和を願う音楽家の会 会員

第24回 平和を願うコンサート

ヒロシマ・ナガサキの風

2011年7月2日(土) 1:45p.m. 開演(開場 1:15)
千葉市生涯学習センターホール

前売券 1,800円 / 当日券 2,000円
全自由席 (高校生以下 1,000円)

第1部

組曲「出雲路」 船川利夫 尺八 井上喜義 箏Ⅰ 井上久子
箏Ⅱ 井上雅子 Fg 加藤洋男

ピアノソナタ30番ホ長調より ベートーヴェン ピアノ 桐生啓子

ヴァイオリンとピアノのための ヴァイオリン 渡部玲子
ロマンチックな小品 ドボルザーク ピアノ 柳瀬洋子

スペイン組曲より セヴィリア アルベニス 他 ピアノ 平木晶子

ファゴットとピアノのための ファゴット 加藤洋男
パストラーレ 池田文麿 ピアノ 柴田優美子

第2部

詩と音楽「ヒロシマ・ナガサキの風」 朗読 浪岡浩子
演奏 会員有志

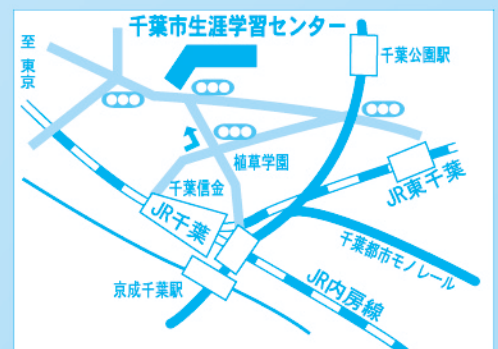
誰も寝てはならぬ プッチーニ マリンバ 塩谷亜弓
チャルダッシュ モンティ ピアノ 澤井夏海

初恋 石川啄木 作詞 越谷達之助 作曲 ソプラノ 堀口弥生
サルビア 堀口幸枝 作詞 中田喜直 作曲 他 ピアノ 平木晶子

あきらめないで (2005年長崎平和宣言) 合唱 千葉合唱団
伊藤一長 原詩 安藤由布樹 補作詞・作曲 指揮 安藤由布樹
ピアノ 木村裕平

エピローグ

折鶴 ふるさと 全員合唱



- JR千葉駅東口または北口から徒歩8分
- 千葉都市モノレール「千葉公園駅」から徒歩5分
- JR千葉駅北口から、千葉内陸バス「千葉駅」行で「中央図書館・生涯学習センター」下車

平和を願う音楽家の会

- スタッフ
プロデューサー 井上喜義 舞台監督 岡村 武
- お問い合わせ ☎ 043-241-2697 (平木)

後援：三番瀬を守る署名ネットワーク 平和を願う千葉県美術家の会 核戦争防止千葉県医師の会 千葉県勤労者山岳連盟

気仙沼 から 産直販売

手
挽
き

とろろこんぶ

唐桑半島 折石



気仙沼市唐桑半島 前田商店からの直送品
・三陸海岸の「天然昆布」を伝統の「手掻き」
で加工した逸品です。
・気仙沼地域の支援活動として斡旋します。
・売上金は、各会の支援活動資金とします。
ご協力をお願いします。

販売価格 一袋50g 550円

問合せ・注文は広木までお願いします。

Eメール danphirop@zpost.plala.or.jp

携帯☎ 090-8316-2020

支援活動の案内

千葉県連では、理事長を先頭に「気仙沼・唐桑半島」で支援活動を行ってきました。今後は「石巻市・水沼地域」の農協の依頼を受けて、関東ブロックの各県連盟と協力して支援活動を行います。

当面は、第1・第2土曜・日曜日を統一行動日として活動します。

各会でまとまったの参加・個人での参加など、参加しやすい方法でお願いします。

参加連絡は・吉田理事長までお願いします。

Eメール：tetsu195715@aol.com

「気仙沼」での支援活動は、継続します。平日等の参加を歓迎します。

鬼泪山 県連統一クリーンハイク報告

県自然保護委員長
ちば山の会 菅井 修

当日、朝から小雨が降るはっきりしない天気、これ以上激しくならないことを願いつつ佐貫町駅に着き車に分乗し集合場所の佛母寺に向かう。

10:00～開会、県連吉田理事長、守る会岩崎会長、佐々木さんからの注意。

10:20～鬼泪山クリーンハイク開始。

電波塔の広場までの林道にはほとんどゴミが落ちていない。その先の林道沿いの林の中には、空缶やペットボトルなどの古いゴミが、半分埋まった状態で捨てられていた。この付近の林道沿いの杉林には昨年度は、TVや冷蔵庫などの大型のゴミが大量に不法投棄されていた。最近、関連官庁が清掃作業を行ったのではないかと思われゴミが少ない。それでも木影になった溝には、古タイヤやTV等の大型ゴミが大量に隠れるように捨ててあった。また別の場所には、1升ビン等が半分埋まった状態で大量に隠れていた。軽トラック 2 台半を広場に集め、回収を市に依頼した。幸い行動中は小雨ですんだ。

13:00から、興源寺で交流集会を行った。

- ・ 鬼泪山勝利報告 (富津市民の会)
 - ・ 田倉産業廃棄物処分場計画撤回運動の報告
 - ・ 金谷残土廃棄場反対運動の報告
 - ・ 千葉労山「鬼泪山を守る山人の会」報告
 - ・ 労山クリーンハイク運動報告
 - ・ 労山の東日本震災ボランティア活動の紹介
- 労山の全国からの署名に対し話題となった。

◆ 統一クリーンハイク結果

- ・ 主な回収ゴミ
古タイヤ(ホイル付あり)10本・TV4・ビン・空缶 総重量800kg
- ・ 参加会 8会 46名
ふわくHC17名・こまくさHC5名・ちば山11名・東葛4名
君津ケルン5名・船橋山の会 3名 山の会岳樺 1名
6名が参加したが 各会の人員に加えてあります。

救助隊から6名が参加した。(各会の参加人数に加えています)
大雨の予報の中、参加いただいた多くの会員に感謝します。



回収したゴミの山 (ふわくHC・小宮氏提供)

県連たより

県連盟連絡先

- ◎ 千葉県勤労者山岳連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX 043-306-1190
Eメール
rousanchiba@grape.plala.or.jp
- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
newstoukou@cwaf.jp
- ◎ 事故一報
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax : 043-271-4704
- ◎ 連盟費振込み
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 皆様の、ご要望に応えられる
「ちばニュース」を目指します。
ご意見・ご感想を待っています。
千葉県連盟・ホームページ
「事務局への問合せ」まで
厳しいご意見を歓迎します。

県連盟よりのお願い

- ・事務局が解体しています。
組織活動の中心は、事務局活動です。
事務局が確立しない事は非常事態です。
 - ・事務局の、ワンパートのお手伝いをお願いいたします。ご協力をお願いします。
ご連絡をお待ちしています。
- 連絡先 県連盟会長 広木 国昭
Eメール

danphiro@zposut.plala.or.jp

記念トレッキングの案内

千葉県連盟・海外委員会では、45周年を記念して、ネパールトレッキングを実施します。

各会より多数の参加をお願いします。

- ◆ 実施時期： 2011年10月
 - ・10日間コース
 - ・2週間コースの2コースを予定しています。
- ◆ トレッキングコース：
エベレスト街道を中心に、絶景コースを検討しています。
- ◆ 参加費用
 - ・10日間コース 約29万円
 - ・2週間コース 約35万円詳細について、検討を進めています。

安く・楽しく・安全に！！

編集後記

気仙沼の支援活動に、会員の親娘が参加した。山男よ、感想文を読んで、素直に反省を！山男の「ノンバー」につき合った報告は、世のオジサン連中に対する鋭い目線を感じる。そんな彼女が、真剣に作業する父親を「カッコイイ」と言っています。この、一言で全てがバラ色になったね「徳ちゃん」。最後には、このような貴重な体験をさせていただいた皆様、本当にありがとうございました。とあります。こちらこそ、ありがとう（danp）

県 連 活 動 予 定 表

6月		7月	
1	水	(船橋山の会)	1 金
2	木		2 土
3	金		3 日
4	土		4 月 機関紙委員会
5	日		5 火 県連役員会
6	月	機関紙委員会	6 水 (船橋山の会)
7	火	県連役員会	7 木
8	水	(船橋山の会)	8 金
9	木	女性委員会	9 土
10	金		10 日
11	土		11 月
12	日		12 火
13	月		13 水 (船橋山の会)
14	火	ハイキング委員会	14 木 女性委員会
15	水	(船橋山の会)	15 金
16	木	県連理事会	16 土
17	金		17 日
18	土		18 月
19	日		19 火 県連理事会
20	月	救助隊・教遭委員会	20 水 (船橋山の会)
21	火		21 木
22	水	(船橋山の会)	22 金
23	木		23 土
24	金		24 日
25	土		25 月
26	日		26 火
27	月		27 水 (船橋山の会)
28	火		28 木 拡大検討部会
29	水	(船橋山の会)	29 金
30	木		30 土
			31 日

ちばニュース 6月号 通巻218号 (無断転載禁)

発行 千葉県勤労者山岳連盟

〒262-0033 千葉市花見川区幕張本郷1-29-18

レジデンス幕張台101号室 TEL・FAX 043-306-1190

発行責任者 吉田 哲治

編集人 広木 国昭

日本勤労者山岳連盟 〒162-0814 東京都新宿区新小川町5-24

TEL 03-3260-6331 FAX 03-3235-4324